

エマージング・ソブリン・オープン（資産成長型）

愛称：エマソブN

追加型投信／海外／債券



作成対象期間：2022年8月6日～2023年8月7日

第 10 期 決算日：2023年8月7日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
当ファンドは、エマージング・カントリー（新興国）のソブリン債券および準ソブリン債券を実質的な主要投資対象として分散投資を行い、高水準かつ安定した利子収入に加え、値上がり益の獲得を目指して運用することを目的としております。ここに運用状況をご報告申し上げます。
当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

第10期末（2023年8月7日）

基準価額	17,081 円
純資産総額	3,964 百万円
騰落率	+9.8 %
分配金合計 ^(*)	0 円

(*) 当期間の合計分配金額です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、以下の方法でご覧いただけます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

閲覧・ダウンロード方法



<https://www.am.mufig.jp/>

[ファンド検索] に
ファンド名を入力

各ファンドの詳細ページで
閲覧およびダウンロード

MUFG 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufig.jp/>

■当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用
フリーダイヤル  **0120-151034**

（受付時間：営業日の9：00～17：00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

ファンドマネージャーのコメント

当期間（過去1年間）の運用で主眼においたポイントをご説明させていただきます。

新興国のファンダメンタルズを重視し、発行国の信用力対比でのスプレッド（米国国債との利回り格差）水準が割安と判断される国を中心に投資を行いました。

【期間末における新興国債券市場への投資のポイント】

➤ **ファンダメンタルズの分析を重視し、ポートフォリオを構築しました。**

新興国債券市場は、金利動向、経済見通し、銀行システムの健全性に関する見通しが変化する中で、中国の経済再開やロシア・ウクライナ紛争などの影響にもさらされました。今後については、新興国の間でもばらつきが拡大し、投資機会が生じる可能性があることから、投資すべき国の見極めが引き続き重要になると考えています。具体的には、十分な国際収支、財政赤字の縮小、コモディティ価格の動向、インフレの鈍化等がファンダメンタルズの支援材料となるほか、債務再編が行われた国々の中にも投資機会を見出していると考えています。

➤ **ポートフォリオの構築について**

ポートフォリオの構築に関しては、発行国のファンダメンタルズやスプレッド水準の評価から組入債券を選定しました。

また、市場価格が発行体のファンダメンタルズと比較して割安な状態になっていると思われる銘柄に関しては機動的に組み入れる運用を行いました。

上記は、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピーの資料を基に、三菱UFJ国際投信が作成したものです。

➤ **主な地域別・国別の配分について**

地域別では、ラテンアメリカやアジア等をベンチマークの構成比に対して低めの投資割合とする一方、欧州や中近東の比率をベンチマークの構成比に対して高めとしました。

国別では、ファンダメンタルズが良好と見ているハンガリーなどの一部の欧州諸国についてはベンチマークの構成比に対して高めの投資割合としました。一方、ファンダメンタルズは良好と考えられるものの、バリュエーション面で割高と思われるフィリピンなどのアジア諸国については、ベンチマークの構成比に対して低めの投資割合としています。当期間では、安定したファンダメンタルズ傾向とコロナ禍からの観光業の回復を考慮し、ヨルダンの組入比率を引き上げたほか、安定的なファンダメンタルズが見込めるハンガリーの組入比率を引き上げました。一方、カタールについては地政学的リスクなどを考慮し組入比率を引き下げました。



ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー
シニア・マネージング・ディレクター、債券ポートフォリオ・
マネジャー
ケビン マーフィー

運用経過

第10期：2022年8月6日～2023年8月7日

▶ 当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第10期首	15,556円
第10期末	17,081円
既払分配金	0円
騰落率	9.8%

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期間の初めに比べ9.8%の上昇となりました。

ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（10.6%）を0.8%下回りました。

基準価額の主な変動要因

上昇要因

新興国債券市況が上昇したことや米ドルが円に対して上昇したことなどが基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

信託報酬等の運用上の費用を計上したことなどが基準価額の下落要因となりました。

※ベンチマークは、J.P. Morgan EMBI Global Diversified（円換算）です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

※ベンチマークは、期首の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。

2022年8月6日～2023年8月7日

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	278	1.735	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
（投信会社）	(159)	(0.995)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
（販売会社）	(106)	(0.663)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(12)	(0.077)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	0	0.001	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
（先物・オプション）	(0)	(0.001)	
(c) その他費用	4	0.024	(c) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
（保管費用）	(3)	(0.019)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
（監査費用）	(1)	(0.004)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
（その他）	(0)	(0.001)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	282	1.760	

期中の平均基準価額は、15,999円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

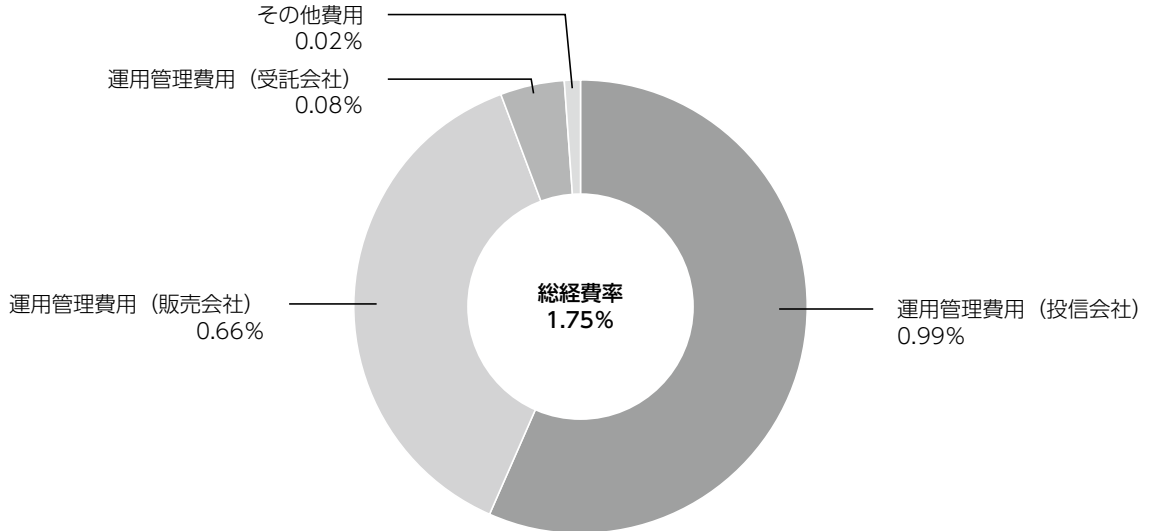
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.75%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

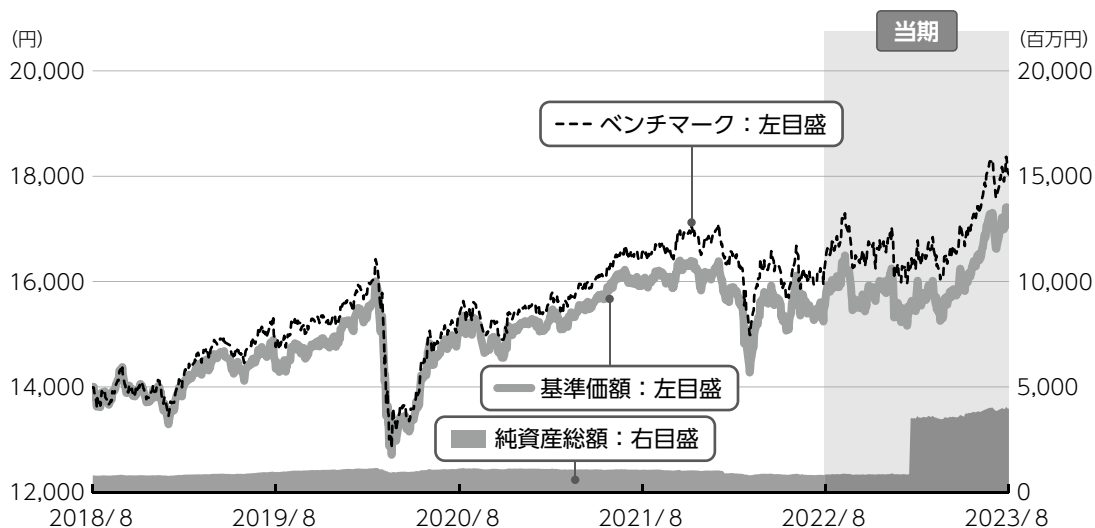
(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

2018年8月6日～2023年8月7日

最近5年間の基準価額等の推移について



※ベンチマークは、2018年8月6日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。
 ※海外の指数は基準価額の反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

最近5年間の年間騰落率

	2018/8/6 期初	2019/8/5 決算日	2020/8/5 決算日	2021/8/5 決算日	2022/8/5 決算日	2023/8/7 決算日
基準価額 (円)	13,992	14,470	15,018	16,015	15,556	17,081
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	3.4	3.8	6.6	-2.9	9.8
ベンチマーク騰落率 (%)	—	6.4	2.8	8.0	-1.4	10.6
純資産総額 (百万円)	802	957	1,125	1,071	830	3,964

ベンチマークは、J.P. Morgan EMBI Global Diversified（円換算）です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

第10期：2022年8月6日～2023年8月7日

投資環境について

▶ 新興国債券市況

新興国債券市況は上昇しました。

インフレ率の伸びの鈍化を受けて米国の利上げペースの減速期待が高まったことなどから、新興国債券市場のスプレッド（米国国債との利回り格差）が縮小し、新興国債券市況は上昇しました。

▶ 為替市況

米ドルは円に対して上昇しました。

米ドルは、米国の利上げペースの減速期待が高まった局面等においては対円で下落したものの、日銀による金融緩和策の継続期待が強まったこと等を背景に、期間を通じてみると対円で上昇しました。

当該投資信託のポートフォリオについて

▶ エマージング・ソブリン・オープン（資産成長型）

エマージング・ソブリン・オープン マザーファンド受益証券の組入比率を高位に保ち、実質的な運用はマザーファンドで行いました。

▶ エマージング・ソブリン・オープン マザーファンド

エマージング・カントリーのソブリン債券および準ソブリン債券を主要投資対象としています。エマージング・カントリーが発行する米ドル建のソブリン債券を中心に投資を行い、一部ユーロ建の債券に投資を行いました。

国別では、ファンダメンタルズが良好と見ているハンガリーなどの一部の欧州諸国についてはベンチマークの構成比に対して高めの投資割合としました。一方、ファンダメンタルズは良好と考えられる

ものの、バリュエーション面で割高と思われるフィリピンなどのアジア諸国については、ベンチマークの構成比に対して低めの投資割合としています。当期間では、安定したファンダメンタルズ傾向とコロナ禍からの観光業の回復を考慮し、ヨルダンの組入比率を引き上げたほか、安定的なファンダメンタルズが見込めるハンガリーの組入比率を引き上げました。一方、カタールについては地政学的リスクなどを考慮し組入比率を引き下げました。

ロシア国債に関して、当該債券を換金できる見込みが立たないことから、2022年7月1日の基準価額より未収利息も含め当該債券の評価価格をゼロとしています。デュレーションは、期間の初めはベンチマークに対してやや短めとしましたが、期間中、水準を調整し、期間末は概ね中

立としました。

※デュレーションとは、「金利変動に対する債券価格の変動性」を示すもので、債券はデュレーションが大きいほど、金利変動に対する価格の変動が大きくなる傾向があります。

外貨の組入比率を高水準に保ち、米ドル建資産については対円での為替ヘッジは行いませんでした。ユーロ建債券への一部の投資については、実質米ドル建の投資となるように為替取引を行いました。

▶ 当該投資信託のベンチマークとの差異について

- ▶ **エマージング・ソブリン・オープン（資産成長型）**
 基準価額は期間の初めに比べ、9.8%の上昇となり、ベンチマークの騰落率（10.6%）を0.8%下回りました。

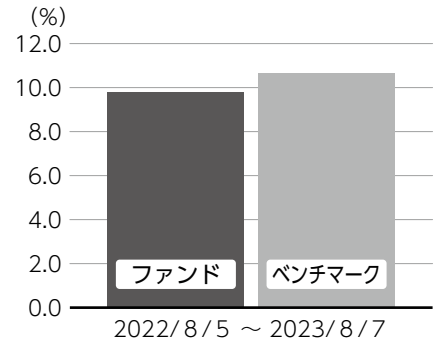
マザーファンド保有以外の要因

信託報酬等の運用上の費用を計上したことなどがマイナスに影響し、ベンチマークをアンダーパフォームしました。

マザーファンド保有による要因

エルサルバドルをベンチマークに対して低めの投資割合としていたことなどがマイナスに作用したものの、フィリピンをベンチマークに対して低めの投資割合としていたことやマレーシアを非保有としていたことなどがプラスに寄与し、ベンチマークに対してアウトパフォームしました。

基準価額（ベビーファンド）と
 ベンチマークの対比（騰落率）



分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準・市況動向等を勘案して、利子・配当収入の中から分配金額を決定しますが、信託財産の十分な成長に資することに配慮して、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第10期 2022年8月6日～2023年8月7日
当期分配金（対基準価額比率）	－（－％）
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	7,080

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針（作成対象期間末での見解です。）

▶ エマージング・ソブリン・オープン（資産成長型）

エマージング・ソブリン・オープン マザーファンド受益証券を高位に組み入れ、マザーファンドを通じて運用を行っていく方針です。

▶ エマージング・ソブリン・オープンマザーファンド

新興国のソブリン債券および準ソブリン債券を主要投資対象とし、ファンダメンタルズ分析・信用リスク分析に基づく分散投資を基本とし、運用を行う方針です。前述の市場環境に対する認識の下、リスクを管理し、ポートフォリオの運用に臨みます。新興国の間でもばらつきが拡大し、投資機会が生じる可能性があることから、投資すべき国の見極めが引き続き重要になると考えています。具体的には、十分な国際収支、財政赤字の縮小、コモディティ価格の動向、インフレの鈍化等がファンダメンタルズの支援材料となるほか、債務再編が行われた国々の中にも投資機会を見出しうると考えています。国別資産配分については、ファンダメンタルズが良好と見ているハンガリーなどの一部の欧州諸国やサウジアラビア等の中近東諸国への配分を重視する方針です。一方、ファンダメンタルズは良好と見て

いるものの、バリュエーション面で割高感のあるフィリピンなどのアジア諸国に関しては、一部を除いてベンチマークの構成比に対して低めの投資割合とする方針です。

当面、デュレーションは、ベンチマークに対して概ね中立とする方針です。

為替取引等については、原則として対円で為替ヘッジは行わない方針です。ただし、ユーロ建資産の一部について実質的に米ドル建となるように行っている為替取引のポジション（持ち高）は、当面維持する予定です。

お知らせ

▶ 約款変更

- ・該当事項はありません。

▶ その他

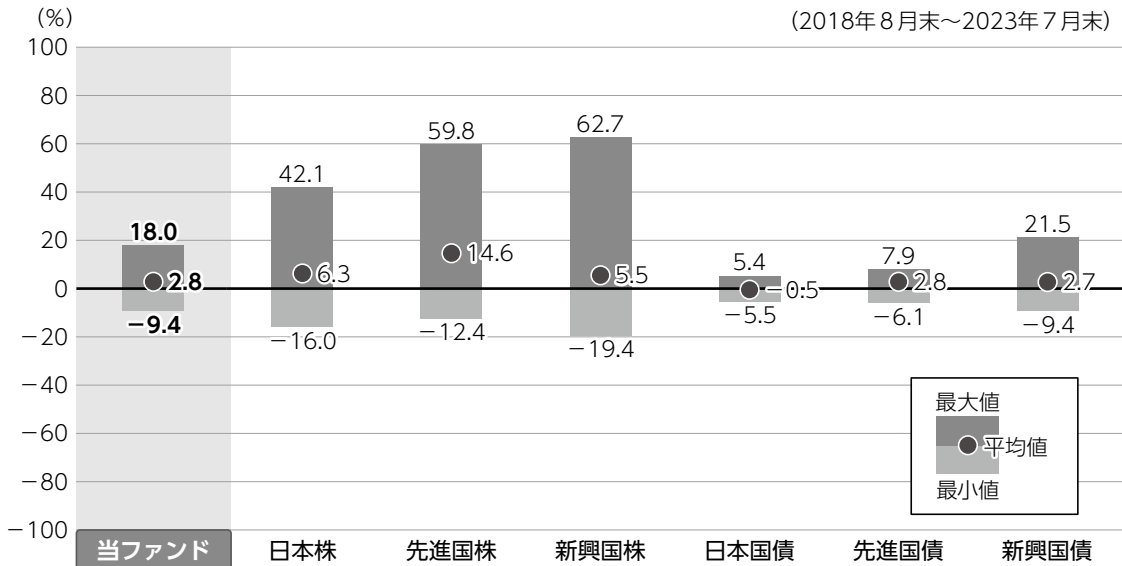
- ・三菱UFJ国際投信株式会社は、2023年10月1日より商号を三菱UFJアセットマネジメント株式会社に変更します。

*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ（<https://www.am.mufg.jp/>）にて開示を行っている場合があります。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／海外／債券
信託期間	無期限（2013年11月6日設定）
運用方針	ファミリーファンド方式により、高水準かつ安定的なインカムゲインの確保とキャピタルゲインの獲得とともに信託財産の十分な成長をはかることを目的として運用を行います。
主要投資対象	<p>■当ファンド エマージング・ソブリン・オープン マザーファンド受益証券</p> <p>■エマージング・ソブリン・オープン マザーファンド エマージング・カンントリー（新興国）のソブリン債券および準ソブリン債券</p>
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・エマージング・カンントリー（新興国）のソブリン債券および準ソブリン債券を主要投資対象とし、分散投資を行います。 ・新興国のソブリン債券、準ソブリン債券からの高水準かつ安定した利子収入に加え、値上がり益の獲得を目指します。 ・マザーファンドの運用の指図に関する権限を、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピーに委託します。
分配方針	毎年8月5日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。基準価額水準・市況動向等を勘案して、利子・配当収入の中から分配金額を決定しますが、信託財産の十分な成長に資することに配慮して分配を行わないことがあります。

ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



●上記は、2018年8月から2023年7月の5年間に於ける1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数（TOPIX）（配当込み）
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）
日本国債	NOMURA-BPI（国債）
先進国債	FTSE世界国債インデックス（除く日本）
新興国債	JPMorganGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

●全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

●騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

2023年8月7日現在

当該投資信託の組入資産の内容

組入ファンド

(組入銘柄数：1銘柄)

ファンド名	第10期末 2023年8月7日
エマージング・ソブリン・オープン マザーファンド	99.0%

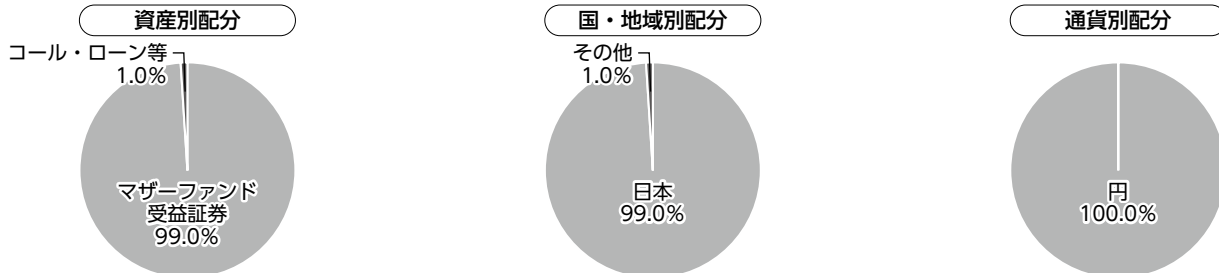
※比率は当ファンドの純資産総額に対するマザーファンドの評価額の割合です。

純資産等

項目	第10期末 2023年8月7日
純資産総額 (円)	3,964,059,759
受益権口数 (口)	2,320,746,632
1万口当たり基準価額 (円)	17,081

※当期中において追加設定元本は1,871,937,970円
同解約元本は 84,933,857円です。

種別構成等



※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先として他のファンドの余剰資金等と合せて運用しているものを含みます。

※【国・地域別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行地、発行通貨を表示しています。

154010

2023年8月7日現在

組入上位ファンドの概要

エマージング・ソブリン・オープン マザーファンド

基準価額の推移

2023年2月6日～2023年8月7日



1万口当たりの費用明細

2023年2月7日～2023年8月7日

項目	当期	
	金額(円)	比率(%)
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	0 (0)	0.000 (0.000)
(b) その他費用 (保管費用)	4 (4)	0.009 (0.009)
(その他)	(0)	(0.000)
合計	4	0.009

期中の平均基準価額は、42,373円です。

※項目の概要については、前記「1万口当たりの費用明細」をご参照ください。

組入上位10銘柄

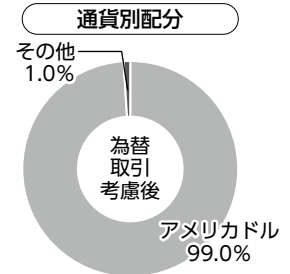
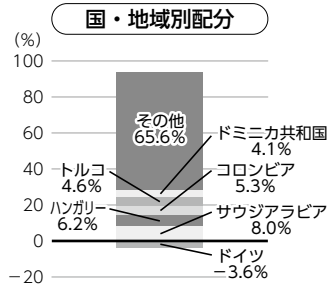
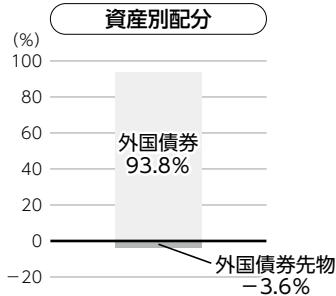
(組入銘柄数：233銘柄)

	銘柄	種類	国・地域	業種／種別	比率(%)
1	5.5 POLAND 530404	債券	ポーランド	国債	2.0
2	5 SAUDI INTERNATI 530118	債券	サウジアラビア	国債	1.9
3	3.125 ABU DHABI G 490930	債券	アラブ首長国連邦	国債	1.8
4	2.783 PERU 310123	債券	ペルー	国債	1.7
5	5 ISRAEL ELEC 241112	債券	イスラエル	社債	1.7
6	4.5 BULGARIA 330127	債券	ブルガリア	国債	1.6
7	4.25 ISRAEL ELEC 280814	債券	イスラエル	社債	1.6
8	6.75 HUNGARY 520925	債券	ハンガリー	国債	1.5
9	7.5 JORDAN 290113	債券	ヨルダン	国債	1.5
10	7.625 ROMANIA 530117	債券	ルーマニア	国債	1.4

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
 ※原則、国・地域については、BloombergのCountry of Riskを表示しています。

※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。

種別構成等



- ※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
- ※資産別配分の先物は買建と売建を別々に表示しています。
- ※原則、国・地域については、BloombergのCountry of Riskを表示しています。

- ※国・地域別配分は、上位5カ国を表示しています。
- ※国・地域別配分は、同一国で買建と売建がある場合、相殺したネットポジションを表示しています。
- ※ロシア国債を保有していますが、当該債券を換金できる見込みが立たないことから、2022年7月1日の基準価額より当該債券の評価価格をゼロとしています。

指数に関して

▶ ファンドのベンチマークである『J.P. Morgan EMBI Global Diversified（円換算）』について

- ・ベンチマークは米ドル建てのJ.P. Morgan EMBI Global Diversifiedを三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値により三菱UFJ国際投信が円換算したうえそれぞれの設定時を10,000として指数化したものです。
なお、ベンチマークは基準日前営業日の同インデックスの指数値を、為替は基準日の三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値を、それぞれ用いて計算しています。
- ・情報は、信頼性があると信じられる情報源から取得したのですが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2015, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

▶ 「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

● 東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。

● MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

● MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

● NOMURA-BPI（国債）

NOMURA-BPI（国債）とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI（総合）のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

● FTSE世界国債インデックス（除く日本）

FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

● JPMorgan Global Emerging Markets Diversified

JPMorgan Global Emerging Markets Diversifiedとは、J.P. Morgan・セキュリティーズ・エルエルシーが算出して公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ.P. Morgan・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。



三菱UFJ国際投信